

	所 属	現代社会学部 現代社会学科
	専 攻	子ども生活学専攻
	主な担当科目	ソーシャルワークの基盤と専門職
	氏 名	梅木 幹司
	フリガナ	ウメキ モトシ
	職 位	教授
	学 位 等	修士(健康福祉学)

研究内容・社会業績等

【研究内容等】

社会福祉士(ソーシャルワーカー)を含め、対人援助職の支援のあり方に興味・関心があり、研究しています。特に支援者としての倫理(特に介護支援専門員に求められる職業倫理)について検討しています。対人援助職は、様々な葛藤の中で支援をしています。その構造等を明らかにすることを目標としています。

また、本学では、2018年度より「スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程」を設置し、その専門科目群を担当しています。スクールソーシャルワーカーの質の向上を目指した養成を行っていきたくと考えています。

学外においては、一般社団法人山口県社会福祉士会において、子ども権利擁護推進委員会に所属し、子どもたちが自分たちの権利を主体的に主張することができるような支援とその仕組みづくりを山口県の委託を受けて行っています。

私自身も社会福祉士であるため、社会福祉士として求められているソーシャルワーク機能を地域共生社会の中で確立することを目指して活動しています。

【主な社会業績】

- 一般社団法人 山口県社会福祉士会会長(2019年～2021年)
- 公益社団法人 日本社会福祉士会学会運営委員会委員(2017年～2021年)
- 社会福祉法人 萩市社会福祉事業団評議委員(2018年～)
- 山口県福祉サービス第三者評価事業推進委員(2022年～)
- 萩市成年後見制度利用促進協議会会長(2022年～)
- 一般社団法人つなぎ第三者委員(2022年～)
- 山口県介護支援専門員協会研究指導者(2023年～)

論文・書籍・資格等

【資格】

社会福祉士

【論文】

- ・保育者の経験年数が保育の行動や意識に与える影響—保育の質向上に向けた取り組みの検討—(共著) 至誠館大学研究紀要第11巻(2024年)
- ・保護者の子育て支援に対する保育関連行為の有用性に関する検討—保育者と保護者の意識の違いにおける分析から—(共著) 至誠館大学研究紀要第10巻(2023年)
- ・表現活動に影響を及ぼす保育内容の考察—保育士の意識と経験年数の違いによる分析から—(共著) 至誠館大学研究紀要第9巻(2022年)
- ・保育所保育が保護者の子育て支援の満足度と与える影響の要因構造に関する検討—保護者の意識の違いによる分析—(共著) 至誠館大学研究紀要第9巻(2022年)
- ・ケアマネジャーの倫理的行動とその関連要因(共著) 至誠館大学研究紀要第8巻(2021年)
- ・主任ケアマネジャーの倫理に関する意識と行動(共著) 至誠館大学研究紀要第8巻(2021年)

【その他】

- ・月刊ケアマネジメント5月号「ケアマネジャーの倫理に関する意識と行動について(前編)」(環境新聞社/第33巻5号pp53～56/2022年)
- ・月刊ケアマネジメント6月号「ケアマネジャーの倫理に関する意識と行動について(後編)」(環境新聞社/第33巻6号pp54～57/2022年)

学生へのメッセージ

大学生活は、長い人生において4年間という限られた時間ではありますが、大学の授業以外は自由に時間を使うことができる期間だと思います。この限られた期間を今後の自分の人生を決める期間として、様々なことに興味や関心をもって積極的にチャレンジしてほしいと思います。

多くの人と出会いも大切にしてほしいと思います。大学生活は、自分自身の深みをつくるための礎の期間として有意義に過ごしていただきたいと考えています。また、社会福祉士の資格取得を目指す人は、4年間一緒に頑張りましょう!